

研修会報告No.3 よりよい授業をめざして

今号では、9月に開催した「教職5年経験者研修」と「特別支援教育研修会」について報告します。それぞれの研修会の様子、大切にしていきたいポイントについて紹介します。

「教職5年経験者研修 教育事務所における研修」

【9月10日(月) 各授業会場校・米沢市すこやかセンター】

教職5年経験者研修は、「特別活動」を軸に、望ましい人間関係づくりや魅力ある学級づくりの研修を行っています。特別活動及び学級づくりについては、探究型学習の基盤としても重要です。また、「特別活動」は平成30年度より新学習指導要領によるとされており、今後、学校でも中心的な立場を担うこととなる5年経験者が、協働的に「特別活動」を学ぶことができる場として設定しております。

授業研究では、米沢市立西部小学校瀬野俊彦先生、高島町立糠野目小学校島貫梓先生、川西町立川西中学校神尾光先生に「学級活動(1)における話し合い活動」の授業を提供いただきました。議題選定の工夫、意見を比べ合うポイント、折り合いをつけた合意形成、教師の適切な支援等、子供達の姿を通してよりよい話し合い活動の在り方について学ぶことのできる貴重な機会となりました。



また、昨年度に引き続き國學院大學教授の杉田洋先生をお招きして「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動」をテーマにご講義いただきました。学級活動や学級づくりの様々な実践例を通して「人を育てること」「集団の力を高めること」について深く学ぶと共に、子供達を信じ、期待し、潜在能力を引き出し、育てていく。そんな「子供の頑張りを応援できる教師」であり続けたいという、教師としての決意を新たにす機会となりました。この講義は、置賜教育事務所のオープン講座として広く周知し、小・中学校等24名の先生方の参加をいただき、5年経験者だけでなく多くの先生方の意欲的なまなざしと熱気にあふれる良い研修の時間となりました。

~参加された先生方の声~

- ・授業参観では、子供達が自分の考えを伝えたり、用具の準備や掲示等細かい手立てが行き届いていたりして、参考にしたいことがたくさんありました。(5年研)
- ・杉田先生の講義をお聞きし、6年目を迎えたいま、分掌等の仕事が増え、一番大切な部分をおろそかにしていなかったか。自分自身を見つめ直す良い機会となりました。(5年研)
- ・子供の力を信じていきたい。これほど感動した講義は初めてでした。(オープン参加)
- ・本当の意味で「子供主体」となっているか。皆で考え、学校として実践していきたいと思いました。(オープン参加)

「学習障がい」の理解を深める ～通常学級における特別支援教育～

特別支援教育研修会【9月7日（金） 南陽市沖郷公民館】

今年度は、宮城学院女子大学の梅田真理教授をお招きし、「学習障がい」にクローズアップした研修を行いました。当日は、小・中学校はもちろん、高等学校の先生方もたくさん参加してくださいました。「障がい」というフレームで見るだけでなく、児童生徒の育ちの過程や背景も踏まえて、その子が「何に困っているのか」という視点で実態把握することが、より適切な支援につながることを教えていただきました。また、学習上困難を抱える児童生徒がどのようなことで困っているか演習を通して体験的に学ぶことができました。

学習に困難を抱える児童生徒は、「自分はできない」と思ってしまうがちです。しかし、教師が「学びのスタイルは人それぞれ」という認識に立ち、そのスタイルに応じた指導や支援を考えていくことが、一人一人に自信をつけそれぞれの将来へつながっていくこととなるという特別支援教育で大事にしたいことを改めて教えていただきました。

明日の指導や支援のヒントをたくさんいただいた研修会になりました。



～参加された先生方の声～

- ・支援を要する子に「寄り添おう」という気持ちはありましたが、真に理解はできていなかったと思います。子供の“わからない”ということが今回はわかり、もやもや感や疲労感もわかりました。自分の声がけ、支援が逆に子供の負担になっていたこともあったと反省し、明日から改善していきたいと思いました。
- ・生徒を注意する前に、自分がすべきことがたくさんあることを痛感しました。「できない子」ではなく「こんな支援があればできる子」という発想を授業に生かしていきたいです。
- ・「なぜできないのか」そのつまずきの原因を考えて、合う手立てを子供と一緒に考えていくことが「勉強が楽しい」と思える第一歩に繋がると感じました。

初任者も授業力向上のため頑張っています！

置賜教育事務所の初任者研修では、年間5回の授業研究会を行っており、初任者同士が授業を参観し合うことで力をつけています。これまで3回の授業研究会を終えましたが、めあてに向かって一生懸命活動する子供たちの姿に、初任者の授業づくりへの頑張りが表れています。また、仲間による進行のもと協議テーマに沿って事後研究会を行っていますが、意欲的かつ質の高い話し合いが行われ、協議をもとに自分の授業を高めようという姿があります。まさに「主体的・対話的で深い学び」が実現されています。

会場校の校長先生にはご講話をお願いしており、ご自身の経験を交えた示唆に富んだメッセージを送っていただいています。初任者は視野を広げ刺激を受けるとともに、自身の理想の教師像とはどんなものか、考えるきっかけをいただいています。

